

NEW WAVE

ニューウェーブ

49号

2018.11
発行

特集 「海洋研究開発機構 (JAMSTEC)」女性研究者の方へ
市民サポーターによるインタビュー

講演会 「男女共同参画フォーラム」の開催について

お知らせ 「女性に対する暴力をなくす運動」について



ヴェルニー公園

Seminar……講座のご案内

男女共同参画フォーラム

「サンデーモーニング」コメンテーター大崎さんに学ぶ 男女共同参画型の防災で あなたの明日を守る方法

最近、台風や地震などの災害が増えています。日ごろから男女共同参画の視点をもって災害に備えることが大切です。

災害時に備え、自分の防災力をチェックしてみませんか？

講師 **大崎 麻子** さん
日時 平成30年12月7日(金) 14:00~15:30
会場 横須賀市役所5階 正庁
定員 先着150名
申込み 横須賀市コールセンター (8時~20時、年中無休)
電話 046-822-2500 / FAX 046-822-2539
問合せ 人権・男女共同参画課 (電話046-822-8228)



<プロフィール>
フリーの国際協力・ジェンダー専門家として、国内外で幅広く活動中。内閣府男女共同参画推進連携会議有識者議員、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事、サンデーモーニング(TBS系)レギュラーコメンテーター等を務める。

「女性に対する暴力をなくす運動」について



毎年11月12日から11月25日(女性に対する暴力撤廃国際日)までの2週間、内閣府その他の男女共同参画推進本部構成府省庁の主唱により「女性に対する暴力をなくす運動」を実施しています。

夫・パートナーからの暴力(DV)、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、決して許されるものではありません。

暴力に一人で悩んでいる女性に対し、相談窓口への相談を促すとともに、この機会に女性に対する暴力について考え、暴力のない社会を築いていきましょう。

◆横須賀市の相談窓口

女性のためのDV相談(こども青少年支援課)

配偶者や交際相手などからの身体的・精神的・性的・経済的暴力等に悩む女性の相談に女性相談員が応じます。
〒238-8550 横須賀市小川町16 (はぐくみかん5階)
電話 046-822-8307
相談日時 月~金 10時~16時(年末年始、祝日を除く)
相談方法 電話、来所(来所の相談は要予約)

デュオよこすか女性のための相談室

女性が日頃から抱える悩みに女性相談員が応じます。
〒238-0041 横須賀市本町2-1(横須賀市立総合福祉会館5階)
電話 046-828-8177
一般相談 月・水・金 9時~16時(面談は要予約)
法律相談 原則第3火曜日(予約制・女性弁護士対応)

デュオよこすか デュオルーム

男女共同参画を推進するための施設です。交流の場、情報収集の場としてご利用ください。

★ミーティングスペース ★関係資料の閲覧 ★図書の出し出し

〒238-0041 横須賀市本町2-1(横須賀市立総合福祉会館5階)
電話 046-822-0804
開館時間 月曜日~土曜日 9時~20時 / 日曜日 10時~17時
休館日 年末年始、臨時休館日



発行・問合せ/横須賀市 市民部 人権・男女共同参画課 〒238-8550 横須賀市小川町11 電話 046-822-8228

メール:we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp HP:http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2420/gender/index.html

◎この広報紙は10,000部発行し、1部あたりの印刷経費は9.7円です。

◎この広報紙は、印刷用の紙へリサイクルできます。

リサイクル適性(A)

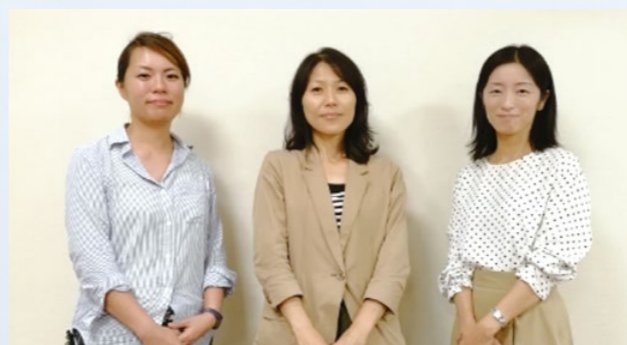
エコライフ ◀ 意識をすれば、必ず変わる ▶ 男女共同参画

~女性の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進~

ジャムステック

JAMSTECの「リケジョ」たち

男女共同参画市民サポーターによるインタビュー特集、今回は・・・
追浜にある海洋・地球の研究所、国立研究開発法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) に勤務する「リケジョ(理系女子)」取材しました。



(左) 渡部裕美さん
大学院で博士号を取得後、日本科学未来館展示解説員、学術振興会特別研究員(PD)を経て、現職はJAMSTEC海洋生物多様性研究分野技術主任。夫と2人で横須賀市在住。

(中央) 服部美紀さん
大学院在学中に結婚し、休学して2人の子供を出産後に復学して博士号を取得。JAMSTECのポスドク研究員を経て、現職はJAMSTEC地球環境観測研究開発センター技術研究員。夫と子ども3人で横浜市在住。

(右) 吉光淳子さん
大学で数学・物理学を専攻し、その後、大学院の地球科学科に進学して地震学を専攻。現職はJAMSTEC地球深部ダイナミクス研究分野技術副主任。夫と子ども3人で横浜市在住。

※インタビュー記事のなかでは、渡部さんをA、服部さんをB、吉光さんをCと表しています。

Q 理系を目指した動機、きっかけは？

A: 子どもの頃に身近な親戚が亡くなった時に、「生きているって、生き物ってなんだろう」とすごく悩んだことが一番のきっかけだと思います。その後、生命の起源や多様化に興味を持ちました。

B: 高校生の頃は理科が好きで、環境汚染問題に関心を持っていました。大学生の時に環境科学という分野を幅広く学びましたが、登山やスキューバダイビングなどを通して特に気象学に興味を持つようになりました。

C: 高校の授業で物理と地学に興味を持ち、「地球」「宇宙」というスケールの大きな話にとってもワクワクしました。授業を担当していた先生の影響が大きく、大学でもっと勉強したいと思いました。

Q 理系(仕事)の魅力、おもしろさは？

A: 自然科学の、実証や証拠があって論理的な話を展開し、自分の知りたいことをどんどん突き詰めてい

ける、その手順も含めて面白いと思います。

B: 自然の美しさや激しさ、奥深さを肌で感じられるところ、自分なりに研究課題を見つけて自分で方法を考え、解いていける自由なところです。

C: 地球の内部構造という目には見えない場所の研究に面白さを感じます。新たな現象の発見にもつながる仕事であり、とてもワクワクしながら仕事をしています。

Q 理系(仕事)の大変さは？

A: 海外の研究者ともやりとりをする中で、文化など違うバックグラウンドを持つ人とどうコミュニケーションを取って意思疎通を図っていくかが大変だと感じています。

B: 子どもを持って以来、長期の観測出張で家を留守にすることが辛いと思うようになりました。

C: 今の仕事は、測定の正確さや精度が求められます。観測技術の進歩や解析方法の改良、発展にともない、求められるデータも変化してくる中で、常に自分の技術を向上させて対応していくことが重要かつ大変なところだと思っています。

Q 職場環境について、教えてください。

A: 私の部署では、男性が圧倒的に多く、研究者・技術者・スタッフ含め17人中3人が女性です。船に乗る仕事が多い中で、乗船研究者は私だけが女性ということもあります。一度だけ、女性の方が多い航海がありました。船内に女性用トイレが足りなくて困りました。

B: 私の部署は、10人中2人が女性です。高校生の頃から理系の男女割合は特に変わらないと思います。

C: 私の部署は、12人中3人が女性です。子育て経験者が多く、上司も子育てしているので、子育てをしながら仕事をするにとっても理解があり、大変有り難く思っています。

Q 職場における男女共同参画の現状は？

A: 出産に関わる制度や所内のネットワークは、比較的整備されている方だと感じています。本格的な治療には足りないかもしれませんが、不妊治療のために利用できる休暇もあります。なお、職場の制度が整っていても、それぞれの家庭環境がそれを受け入れない限り、真の男女共同参画の達成は難しいと思います。いまだに地域によっては、仕事を続けることについて職場環境というよりも、親類やご近所の方から賛同してもらうのが難しいこともあると思います。

B: 仕事の内容や役割に男女の差はなく、個人の実績で評価されていると感じます。研究のスタイルとして個人で進めていく部分が多いので、子どもの発熱など急な休みも取りやすく、女性だけでなく共働きの男性も子どもの看病などで普通に休みを取っています。

C: 研究者・技術者という世界では、仕事上では常に男女対等ですが、まだまだ女性の割合は少ないのが現状です。ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みとして、就業規程や休暇規程の検討・整備が進められてきており、年々制度の拡充が計られてきているという実感があります。定期的に意見交換等を行う場も設けられており、働きやすい職場環境づくりに向けての意識も高まっていると思います。

Q 家事・育児・介護などのこなし方は？

A: 比較的柔軟に休暇を取得させてもらえる職場なの

で、夫の親類の介護や通院の手伝いなどで仕事を休んだりすることもあります。家事は、ロボット掃除機や乾燥機能付き洗濯機などがなくて夫と二人暮らしてあってもこなせきれません。

B: 家事・育児は夫と分担です。どちらかが航海などの出張で2か月程度不在の時は、片方でこなすということもよくあります。最近では、子ども達も手伝ってくれるようになり、お風呂掃除、洗濯物の取り込みなどは任せています。

C: 家事・育児はすべて夫と協力して、できる人ができる事をやるという方針です。保育園、小学校、中学校、学童保育、習い事など夫も私も同じように顔を出し、把握できるように心がけています。子どもが熱を出して仕事を休む時も、夫と一日交替です。

Q 地域社会との関わり方は？

A: 婦人防火クラブの副会長を務めており、地域の防災活動に積極的に関わっています。また、横須賀市で行なっている民泊の受け入れにも携わって、これまでに延べ30人ほど国内外の生徒・学生を受け入れました。祭礼に当たっては、町内のお囃子保存会の一員として地域の子供たちに、こちらに住んでから覚えた笛や太鼓を教えています。

B: 地域社会との関わりも大切にしたいと考えているため、地域活動やイベントなどに積極的に関わっています。保育園や小学校行事、PTA活動にも可能な限り積極的に参加しています。裁量労働制を生かし、朝、小学校の読み聞かせに行ってから出勤することもあります。夫も交替でやっています。

C: 学校、PTA、子ども会、自治会など可能な限り、いろいろな場所に顔を出して協力し、多くの人と面識を得るようにしています。地域社会の中で、子ども達が安心して過ごせるためにも、とても重要なことだと思っています。

Q 休日の過ごし方は？

A: 庭や墓の手入れなど、平日では手が回らない家事と地域活動に使っています。本当に疲れている時は寝ています。

B: 私と家族みんなの楽しみは、年に1度の音楽フェス



インタビューの様子

とキャンプです。普段の休みは、溜まった家事と子どもの行事やソフトボールチームの当番や応援などで、あっという間に過ぎていきます。

C: 休日も含め、自分が自由に使える時間というのは本当にごくごくわずかです。週末は、やはり子ども中心となり、サッカーの応援や部活動の演奏会などに行くのがとても楽しみになっています。今は「自分の時間は無い」と割り切っています。

Q 今の生きがいは何ですか？

A: どうやって多様な生物が地球上に存在するようになったのか、私たちが貢献できるのはほんの一部だと思いますが、やっぱり「自分が知りたい」と思っていること、そのわからないパズルのピースを一つだけでもはめられたら、「ああ、やってよかったなあ」と嬉しいです。

B: 仕事に没頭する楽しさもありますが、正直、今は仕事よりも子どもを生きがいに思っているところがあり、長期の出張は後ろ髪をひかれる思いです。子ども達と一緒に過ごせる時間は限られているので、その時間を最も大切にしています。

C: 今は子ども達の成長を見ることです。だんだんと親

から離れて行く年齢にもなり、家庭の外で懸命に頑張っている姿を見ると「自分も頑張ろう」ととても励みにもなっています。

Q 未来のリケジョに一言、お願いします！

A: 始めるのに遅すぎることではないです。大学院から理系に進む人もいます。何だろう、面白そうと思った時から始めても遅くはないと思います。私は文系だからと枠にはめ込まないで、興味を持ったことをとことん突き詰めてもらいたいです。

B: 専門的な勉強はもちろん必要で、終わることではないですが、研究は個性も大切だと感じます。得意かどうかで文系理系と区別するのではなく、海が好き、星が好き、だから理系に進んでみるというように、好きなことで選ぶのも良いと思います。

C: 研究者・技術者というのは、男女対等な関係が築ける世界です。その分、女性にとっては大変な面も多くありますが、ひとつの学問を追求したり、技術を極めて行くということは大きな強みにもなると思います。科学に興味を持ち、面白い、楽しいと思える事があれば、ぜひ理系の道に進み、研究者・技術者を目指して欲しいと思っています。

～インタビューを終えて～

男女共同参画市民サポーターがインタビューおよび記事作成を行いました。

●女性活躍推進法などの整備に伴い、国の研究機関として、女性が出産・育児を経てキャリアを継続することが出来るような制度が整えられた環境の中、科学する喜びを知る芯の強いリケジョたちがそれらの制度を活用して、仕事と家庭生活を柔軟に選択しながら両立する逞しい生き方を垣間見て、頼もしくも羨ましくも感じました。こんな職場環境が一日も早く全国津々浦々の働く女性たちのところにも行き渡ってほしいと願わずにはおられません。そうすれば、難航する少子高齢化問題の解決も自ずと見えてくると思われます。(関 昌夫)

●久々に記事作成に参加しました。今回はJAMSTECにお勤めの「リケジョ」特集。皆さん大学院を出て男性同様に専門の研究に勤む姿が頼もしいと同時に、家庭もまた大切にしている姿がとても印象的でした。一つ確信したことは、職場において男女が対等であることは、家庭における男女平等にもつながるということ。これぞ、男女共同参画社会の目指すべき理想だと思いました。(原田 絵里子)

ジャムステック JAMSTECとは？

国立研究開発法人海洋研究開発機構 (Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology)

海洋・地球・生命の統合的理解に向けて、有人潜水調査船「しんかい6500」や地球深部探査船「ちきゅう」などを運用し、平和と福祉の理念に基づき、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究協力等の業務を総合的に行っている研究機関です。全ての機構職員がその能力を十分に発揮できる環境を整えるため、仕事と子育ての両立支援など、多様な働き方の実現に向けた様々な取り組みを行っています。



地球深部探査船「ちきゅう」 (画像提供: 海洋研究開発機構)